

単純な処方の場合どのような服薬指導が可能か？ 決まりきったことしか問答しない場合の薬歴はどのように考えればよいのか？

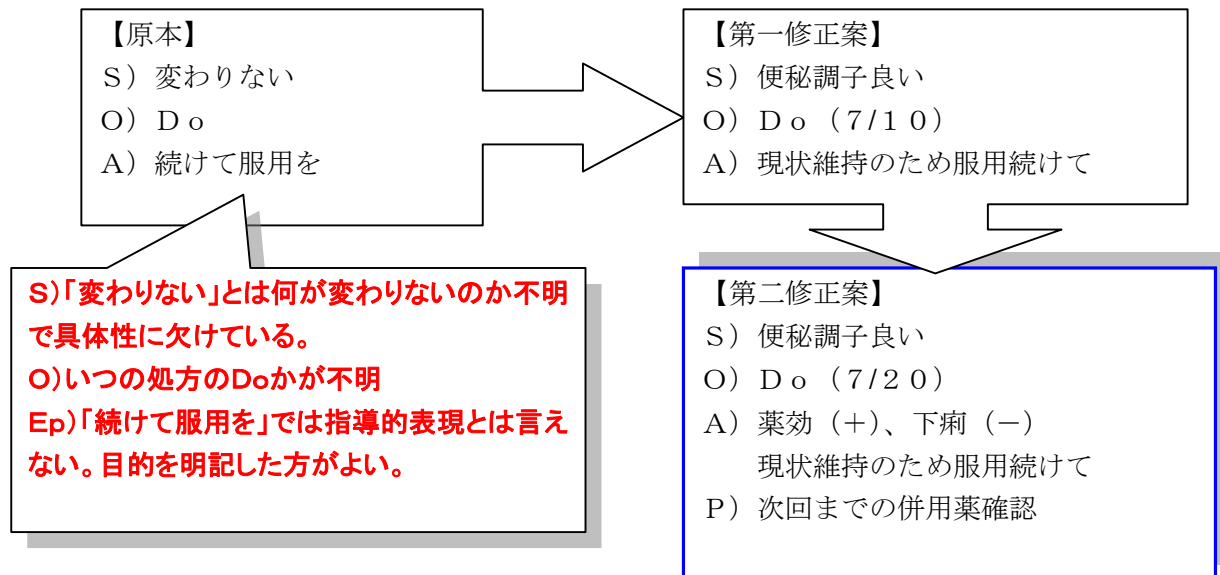
いろいろと薬歴の研修会があるので知識は増えたが、では上記の場合など具体的にどう書けば良いのかを教えて欲しいというある薬剤師からの問いかけがありました。

毎回のように決まりきった処方、それも薬効的に強くなく温和な薬の単一処方の場合で、おまけに口数も少ないような患者さんの場合どのような服薬指導が可能で、どのような薬歴を書けばよいのでしょうか？下記のような極端な例でチャレンジしてみましょう。

【事例】 重質酸化マグネシウム 1.5g 分3 14日分

慢性の便秘の患者さんで、カマを服用していると何とか通じが確保されて、止めると便秘がひどくなる患者さん。他の症状はほとんどなく、たまに風邪をひく程度の患者さんです。ある日の薬歴をみると下記（原本）のようになっていました。この内容は6項目チェックをしても恐らく評価を受けない書き方になると思います。理由は患者情報の具体性や指導内容の具体性に欠けていると思われるからです。しかし、より具体的な表現をすれば算定要件を満たすと思われます。例えば第一修正案は、同じSOAの三項目の記載方法ですが、患者さんの体調・病状の情報を具体的に得て、現状の維持という具体的な目的をもった指導をしており算定要件を満たした書き方になると思います。

第二修正案はSOAP形式のすべての項目を満たした場合を想定しています。Aではカマの薬効がきちんと発揮されているという評価、かつ下痢という副作用もないという評価・判断を記載した後により具体的な指導表現を書いています。Pでは「引き続き薬効確認」としてもよいかもしれませんが「テーマを代えて」次の患者インタビューに役立てるようにしています。



○便秘がこの患者さんの主訴ですから、カマの効果を毎回チェックするのは間違いではありません。それに付随して副作用のチェックをするのも間違いではないでしょう。

同じ内容が連続する薬歴記載の意義は、この患者さんがカマを飲んでいて調子の良い時の状況を表わしている所にあります。それによって異常な時との比較ができようというものです。

○ここでカマの添付文書を見てみましょう。カマの副作用は添付文書によると「下痢など」と「高マグネシウム血症（長期大量服用で発現することがある）」の二つです。

回覧

①「下痢」はカマの薬効が過剰に反映した結果で理解しやすい副作用だと思います。

②「高マグネシウム血症」は成分中に含まれるマグネシウムが血液中に高濃度に含まれた場合で、症状としては脱力感、低血圧、呼吸障害、重症例では心停止につながります。

ここで慎重投与の欄を見ますと下記のようになっています。(3)(4)は各副作用が出ている患者への投与ですから当然のことといえますが、(1)と(2)は十分なインタビューがないとわかりにくいものです。特に高齢者であれば腎機能が低下してくる可能性も高いので慎重投与の(1)と副作用の②を絡めて患者インタビューに使いそうです。

- | |
|--|
| (1) 腎障害のある患者〔マグネシウムの排泄が阻害され高マグネシウム血症を起こすおそれがある。〕
(2) 心機能障害のある患者〔徐脈を起こし、症状が悪化するおそれがある。〕
(3) 下痢のある患者〔下痢を悪化させるおそれがある。〕
(4) 高マグネシウム血症の患者〔高マグネシウム血症の症状を増悪させるおそれがある。〕 |
|--|

以上を踏まえて患者さんへの質問事項P(その結果はSに反映できる)と、それでも単純な回答しかない場合の指導の書き方(A)をまとめてみましたので参考にしてください。カマ以外の事例でも応用が効かせると思うのですが、ご意見お聞かせ下さい (adachi1120@clock.ocn.ne.jp)。

◆次回チェックする項目P

- ・お通じは良い状態が続いていますか？
- ・反って下痢や軟便になったりしていませんか？
- ・検査で腎臓が弱っているということはありませんか？
- ・力が抜けたり、ふらつくような感じになったりしませんか？
- ・検査で心臓が弱っているということはありませんか？
- ・前回から今までの間で別のお薬を飲んだりしていましたか？
- ・のみ忘れることはありませんか？(コンプライアンスチェック)
⇒いつの時間を飲み忘れやすいですか？
- ・薬は余ってきていませんか？(コンプライアンスチェック)
- ・食欲はありますか？ご飯はおいしく食べられていますか？
- ・夜はよく寝られますか？

これらは直接、カマの副作用とは関係ありませんが、患者さんのADL等をチェックすることで服用中の有害事象を発見できるかもしれない(未知の副作用を発見できるかもしれない)
※有害事象とは、薬を服用中に医学上の不適切なことが起きた場合で必ずしも薬との因果関係は問いません。

◆毎回単調な回答しか返ってこない場合の指導内容(A)の例

☆ポイントは「何のために服用を続けるか」の何のためかが分かる表現にすればよいと思います。

- ・今の状態を維持するために服薬続けて
- ・状態を悪化させないために服薬続けて
(血圧の薬の場合)
- ・今の血圧を維持するために服用続けて
- ・今の血圧をこれ以上上げないためにも忘れず服用を
(血糖降下薬の場合)
- ・今の血糖値を維持するために服用続けて
- ・今のA1Cをこれ以上上げないように忘れず服用を

参考資料：薬歴の有効活用(富山県薬剤師会保険薬局研修会H20年7月)

薬と暮らしを切り離さない服薬指導(富山県薬剤師会講演会H20年3月)

アインファーマシーズ薬歴事例シリーズ